

実世界行動情報と情報空間行動情報の統合に関する研究

相原 健郎
Kenro AIHARA

小柴 等
Hitoshi KOSHIBA

武田 英明
Hideaki TAKEDA

どんな研究？

- 実世界および情報空間（インターネットなど）での行動ログの収集とそれらの統合に関する研究です。
- ここでは特に、収集したログを解析することで、**ユーザの心的コンテキスト（気分）の推定**や、ユーザごとの有用かつ**“受容され易い”情報を推定**する技術に関する研究を進めています。
- 街なかで「今日はちょっと疲れたな、さっぱりしたものが食べたいな。」と思って携帯でお店を検索したら、コンピュータが**そんな気分を察してぴったりのお店を紹介してくれる**…そんな未来につながる研究です。

実世界の行動

あなたがよく行く
お店の情報

あなたの買った
お洋服の情報

あなたが見た
Webページの内容

あなたの書いた
ブログ記事の内容

情報空間の行動

このWebページを見て、
この洋服を買いに行ったんだな

今の気分は？

収集&統合

この記事の内容は、
いつもよく行くお店
の内容だな

あなたが受容を
しそうな情報は？

なぜこの研究が必要なの？

- あなたにぴったりの情報を探すには、**あなたの事をよく知り、あなたの気分や、気に入るようなものなどを考える必要があります**。でも、コンピュータは実世界でおきていることを知るのがとっても苦手…
- そこで、**実世界でのあなたの行動をコンピュータに教えてあげるための仕掛けや、実世界の行動と情報空間（インターネットなど）の行動を関連づける仕掛けが必要なのです**。

こんなところで使われています

- 経済産業省の「e空間実証事業」の一環として、これらの研究成果を活用したスマートフォン向けのアプリケーション“pin@clip”を開発し、東京都渋谷区および渋谷区内の商業施設で、一般の皆さんに使っていただきました。
- この実験では、ユーザの行動ログ（アプリの起動や、情報の閲覧・投稿などの動作、そのときの位置など）から、ユーザの気分を推定したり、情報の推薦を行ったりしました。



関連して取り組んだ課題

“この情報を投稿したのは
どんな人？”

行動ログを使って
適切なラベルを

“あなたにぴったりなのはどんな情報？”

行動ログを使ってあなたにあった、
あなたが受け入れやすい情報を

“情報は近ければ近いほどいいの？”

情報の価値と距離との関係を調査し、
あなたにとってより価値ある情報を

10年後この研究はどうなっているか？

- ・ この研究の目標は、**コンピュータを“なじみのお店のなじみの店員さん”にすること**です。
- ・ 10年後にはコンピュータが、
 - ・ あなたの今の状況や気分に応じた
 - ・ あなたは気づいていないけれど、あなたにぴったりの情報を、
 - ・ あなたが気持ちよく受け止められるような方法で、オススメしてくれるようになります！

